

古文ドリル：敬語の種類見分け 100問

対象：高校生・大学受験生 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：敬語の3種類

古文の敬語は **3種類** あります。

種類	敬意の対象	例
① 尊敬語	動作主 を敬う	給ふ・おはす・仰す
② 謙譲語	動作の受け手 を敬う	奉る・参る・申す
③ 丁寧語	聞き手・読み手 を敬う	侍り・候ふ

主な敬語動詞

尊敬語

動詞	訳
給ふ	～なさる
おはす	いらっしゃる
仰す	おっしゃる
召す	お召しになる
御覧	ご覧になる
大殿籠る	お休みになる
思す	お思いになる

謙讓語

動詞	訳
奉る	差し上げる
参る	参上する
申す	申し上げる
仕うまつる	お仕えする
賜ふ（下二段）	いただく

丁寧語

動詞	訳
侍り	～です・～います
候ふ	～です・～います

識別の鉄則

1. **誰の動作か**を確認
2. **その動作を誰に対してするか**を確認
3. 動作主を敬う → 尊敬
4. 受け手を敬う → 謙讓
5. 聞き手を敬う → 丁寧

二重敬語（最高敬語）

- 「せたまふ」「させたまふ」「しめたまふ」
- 帝・中宮など最高位の人物に対する敬意
- 「使役+尊敬」ではなく「尊敬の二重」と読む場合に注意

🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。
こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

コツ① 敬語動詞は「形を見ただけで」種類が分かる（暗記が最強）

種類別の 頻出敬語動詞だけ覚えれば 文脈不要で即答できる： - 尊敬 → 給ふ（四段）／おはす／仰す／召す／御覧ず／大殿籠る／思す - 謙譲 → 奉る／参る／申す／仕うまつる／賜ふ（下二段） - 丁寧 → 侍り／候ふ（の2語だけ）

「侍り・候ふ」を見たら 無条件で丁寧（所在の意味は別）。

コツ② 「給ふ」は四段なら尊敬、下二段なら謙譲

同じ「給ふ」でも 活用 で意味が変わる超頻出ポイント： - 四段「給ふ」（給は・給ひ・給ふ・給ふ・給へ・給へ）→ 尊敬「～なさる」 - 下二段「給ふ」（給へ・給へ・給ふ・給ふる・給ふれ・給へよ）→ 謙譲「～させていただく」

下二段の「給ふ」は会話文・手紙文の「思ふ・見る・聞く・知る」など知覚動詞にしか付かない。

コツ③ 「奉る」「参る」は文脈で意味が分岐

- ・ 奉る → 基本は謙譲「差し上げる」、ただし「お召しになる／お乗りになる」の尊敬用法あり
- ・ 参る → 基本は謙譲「参上する」、ただし「召し上がる」の尊敬用法あり

迷ったら 動作の流れ をチェック：身分の高い人へ向かう動きなら謙譲、身分の高い人がする動きなら尊敬。

コツ④ 動作主を文の主語から逆算する

種類を決めるには「誰がする動作か」を見る： - 動作主が 身分高い人 → 尊敬 - 動作主が 身分低い人で、行為の先に身分高い人がいる → 謙譲 - 話し手が 聞き手 に丁寧で話している → 丁寧

試験本番でのチェック順序

1. 「侍り・候ふ」なら即 丁寧 で確定
2. 「給ふ」を見たら 活用 をチェック（四段＝尊敬／下二段＝謙譲）
3. 残りは敬語動詞リストの 形 で種類を即決
4. 「奉る・参る」は文脈で尊敬・謙譲を分岐

→ この順番で 3秒 で答えが出ます。

よくある引っかけ

- ・ 「給ふ」を全部尊敬と誤答 → 下二段は謙譲（思ひ給へ・見給へ等）
- ・ 「侍り」を「ある／いる」の意味だけで取る → 補助動詞なら丁寧
- ・ 「奉る」「参る」を全部謙譲と誤答 → 「お召しになる／召し上がる」は尊敬

採点表

- 基礎 (Q1~Q20) : /20
- 標準 (Q21~Q50) : /30
- 応用 (Q51~Q80) : /30
- 入試レベル (Q81~Q100) : /20
- 合計 : /100

【第1部】 基礎編 (Q1~Q20)

Q1. 敬語の種類を答えよ。

帝、御文書か**せたまふ**。

Q2. 種類を答えよ。

御文を**奉る**。

Q3. 種類を答えよ。

「これは**尊し**」と**申す**。

Q4. 種類を答えよ。

我れも参り**侍り**。

Q5. 種類を答えよ。

中宮、**御覧ず**。

Q6. 種類を答えよ。

御所に参る。

Q7. 種類を答えよ。

法皇、御幸おはす。

Q8. 種類を答えよ。

君に仕うまつる。

Q9. 種類を答えよ。

物侍り。

Q10. 種類を答えよ。

上、仰せらる。

Q11. 種類を答えよ。

大納言、御前に候ふ。

Q12. 種類を答えよ。

帝、御物の怪に苦しませたまふ。

Q13. 種類を答えよ。

我れ、御前にまうづ。

Q14. 種類を答えよ。

院、大殿籠る。

Q15. 種類を答えよ。

ありがたく思ひ給ふること。

Q16. 種類を答えよ。

「いま参り候ふ」と申す。

Q17. 種類を答えよ。

御簾を上げさせたまふ。

Q18. 種類を答えよ。

御文を奉る。

Q19. 種類を答えよ。

御前に侍ふ。

Q20. 種類を答えよ。

帝、思しめす。

基礎編 / 20

【第2部】標準編 (Q21~Q50)

Q21. 種類と敬意の対象を答えよ。

中宮、御文を奉る。

Q22. 種類と敬意の対象を答えよ。

中宮、御文奉りたまふ。

Q23. 種類を答えよ。

「我れも参り侍りぬ」と申す。

Q24. 種類を答えよ。

帝、御簾を上げさせたまふ。

Q25. 種類を答えよ。

御供に仕うまつる。

Q26. 種類を答えよ。

いと尊くおはします。

Q27. 種類を答えよ。

御物をたまはる。

Q28. 種類を答えよ。

「いとあはれなり」と仰せらる。

Q29. 種類を答えよ。

御前に候ひけり。

Q30. 種類を答えよ。

御文中宮より賜ふ（四段）。

Q31. 種類を答えよ。

文を奉りたまふ。

Q32. 種類を答えよ。

帝、御簾の中に入らせたまふ。

Q33. 種類を答えよ。

御前に参り侍り。

Q34. 種類を答えよ。

御物を召す。

Q35. 種類を答えよ。

「行く」をまうづ。

Q36. 種類を答えよ。

院、御覧ぜさす。

Q37. 種類を答えよ。

御文をたてまつる。

Q38. 種類を答えよ。

御台ばかり侍り。

Q39. 種類を答えよ。

中宮、御文を御覧ず。

Q40. 種類を答えよ。

御父にまゐる。

Q41. 種類を答えよ。

君、おぼしわづらふ。

Q42. 種類を答えよ。

さぶらふ人召せ。

Q43. 種類を答えよ。

我れ、御いとまたまはる。

Q44. 種類を答えよ。

帝、思しめしたり。

Q45. 種類を答えよ。

御文を書きまゐらす。

Q46. 種類を答えよ。

御供に候ひたまふ。

Q47. 種類を答えよ。

御所にまゐりたり。

Q48. 種類を答えよ。

帝、御簾を召したまふ。

Q49. 種類を答えよ。

「侍に候ふは誰ぞ」と仰す。

Q50. 種類を答えよ。

我れ、御文をまゐらす。

標準編 / 30

【第3部】 応用編 (Q51~Q80)

複合敬語・敬語連動・誰から誰への敬意かを問う。

Q51. 敬意の方向（誰から誰へ）を答えよ。

大臣、帝に文を奉りたまふ。

Q52. 敬意の方向を答えよ。

中宮、御文を御覧じたまふ。

Q53. 敬意の方向を答えよ。

「我れ、参り侍り」と申す。

Q54. 種類を答えよ。

帝、御心を思しめさせたまふ。

Q55. 種類を答えよ。

中宮、おはしましけり。

Q56. 種類を答えよ。

「おそろし」とおぼしたまふ。

Q57. 種類を答えよ。

御簾の前にさぶらひたまふ。

Q58. 種類を答えよ。

「これは尊し」と申したまふ。

Q59. 種類を答えよ。

御たよりにたまはせたり。

Q60. 種類を答えよ。

帝、仰せ言たまふ。

Q61. 敬意の方向を答えよ。

「君にさぶらはむ」と申す。

Q62. 種類を答えよ。

御けしきをたまはらむ。

Q63. 種類を答えよ。

「御文を奉りつ」と申し侍り。

Q64. 種類を答えよ。

帝、御目にて御覧じたまふ。

Q65. 種類を答えよ。

中宮まゐりたまへり。

Q66. 種類を答えよ。

「御文たてまつりたまへ」と仰す。

Q67. 種類を答えよ。

帝、御覧せさせたまふ。

Q68. 種類を答えよ。

御供にさぶらひ侍り。

Q69. 種類を答えよ。

「これを召したまへ」と申す。

Q70. 種類を答えよ。

御おもてをまもりたまふ。

Q71. 種類を答えよ。

御文を奉らせたまふ。

Q72. 種類を答えよ。

御祈りせさせたまふ。

Q73. 種類を答えよ。

「行く」と申したまへり。

Q74. 種類を答えよ。

御物を奉らす。

Q75. 種類を答えよ。

中宮、御心をおぼしめさせたまふ。

Q76. 種類を答えよ。

御簾の内にさぶらはせたまふ。

Q77. 種類を答えよ。

「君にまうすべきこと侍り」と言ふ。

Q78. 種類を答えよ。

帝、御物の怪に苦しませたまふ。

Q79. 種類を答えよ。

御気色をたまはりたり。

Q80. 敬意の方向を答えよ。

「我れ、御供にまゐらむ」と申し侍り。

応用編 / 30

【第4部】 入試レベル (Q81~Q100)

最高敬語・絶対敬語・特殊敬語動詞。

Q81. 種類を答えよ。

帝に奏す。

Q82. 種類を答えよ。

中宮・東宮に啓す。

Q83. 種類を答えよ。

帝、御簾を上げさせたまふ。

Q84. 種類を答えよ。

「しろしめすところなり」と申す。

Q85. 種類を答えよ。

「あな尊」とのたまふ。

Q86. 種類を答えよ。

御命をたてまつる。

Q87. 種類を答えよ。

院、おはしましぬ。

Q88. 種類を答えよ。

御衣をたまはす。

Q89. 種類を答えよ。

「君のあれば」とのたまはせたり。

Q90. 種類を答えよ。

院、御心を思ほしたり。

Q91. 種類を答えよ。

「御文をけいす」と申す。

Q92. 種類を答えよ。

御かしらおろしたまふ。

Q93. 種類を答えよ。

御物の怪にわづらはせたまふ。

Q94. 種類を答えよ。

「御文をたてまつらせたまへ」と申す。

Q95. 種類を答えよ。

我れ、つかうまつり侍る。

Q96. 種類を答えよ。

御心をまどはせたまふ。

Q97. 種類を答えよ。

御目見たまふ。

Q98. 種類を答えよ。

帝、しろしめしたり。

Q99. 種類を答えよ。

御供にひかへ侍り。

採点振り返り

- 基礎 (Q1~Q20) : /20
- 標準 (Q21~Q50) : /30
- 応用 (Q51~Q80) : /30
- 入試レベル (Q81~Q100) : /20
- 合計 : /100

あしがき

敬語の種類見分けの核心： - **動作主を敬う** → 尊敬 - **動作の受け手を敬う** → 謙讓 - **聞き手・読み手を敬う** → 丁寧 - **二重敬語（せたまふ／させたまふ）** → 最高敬語（帝・中宮・院） - **絶対敬語** → 「奏す」（帝へ）、「啓す」（中宮・東宮へ） - 「賜ふ」四段＝尊敬、下二段＝謙讓（同形異活用） - 「候ふ」「侍り」は文脈で謙讓／丁寧を判別
源氏物語・枕草子の必須文法。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太